



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
6/29 (月)	+ 200	+ 3,400	+ 3,600	国庫短期証券発行償還 (3M) 各種財政資金の支払い	国債補完供給 + 800	国債買入 + 5,600	日：小売売上高 (5月) 欧：ECBフォーラム (~7/1) ：ユーロ圏消費者信頼感指数 (6月)
6/30 (火)	▲ 200	+ 6,300	+ 6,100				日：外国為替平衡操作の実施状況 (5/28~6/26) ：失業率 (5月) ：有効求人倍率 (5月) ：住宅着工件数 (5月) 米：消費者信頼感指数 (6月)
7/1 (水)	トン	▲ 12,600	▲ 12,600	国債発行償還 (2年)			日：日銀短観 (2Q) 米：ISM製造業景況指数 (6月) 欧：ウォーシュFRB議長、ラガルドECB総裁がECBフォーラムのパネル討論会に参加 ：ユーロ圏CPI (6月)
7/2 (木)	トン	▲ 37,000	▲ 37,000	法人税、消費税、 保険揚げ			米：雇用統計 (6月) 欧：ユーロ圏失業率 (5月)
7/3 (金)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	国債発行 (10年)			欧：ユーロ圏サービス業・総合PMI (6月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国債の大量償還により前営業日対比4兆2,900億円増加の443兆200億円から始まった。その後、国債買入や国債発行等の要因により増減し、26日は440兆円（速報）で越週した。
無担保コールON物加重平均金利は週初、0.977%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。
ターム物は1W~3W物0.985%~1.130%のレンジ、1M~3M物1.085%~1.220%のレンジで出が見られた。
来週の予定は、国内では30日に失業率（5月）の公表、7月1日に日銀短観（2Q）の公表、海外では6月29日から7月1日にECBフォーラムの開催、1日にユーロ圏CPI（6月）の公表、2日に米雇用統計（6月）の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.950 ~ 0.978
1M	1.05 ~ 1.10
2M	1.05 ~ 1.15
3M	1.10 ~ 1.20
6M	1.20 ~ 1.50

<レポ>

足許GCは週を通して1.000%~1.005%の狭いレンジでの出会いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。
SC取引は2年470~482回債、5年155~185回債、10年356~372、378~381回債、20年110~130回債、30年86~90回債などに引合いが見られた。また20年196回債は発行日前日には低い水準での出会いも見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.90台
CP 3M (a-1+)	1.0 ~ 1.2

<CP>

今週の入札発行総額は3兆5,575億円で、週間償還額の4兆260億円を下回った。発行残高は、先週末時点の24兆3,457億円から、6月25日時点で24兆7,536億円へと増加した。発行市場では、機械・食料品・不動産業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.0%台から1.1%台、3ヶ月物で1.1%台から1.2%程度と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約6,000億円となっている。発行市場は、期明けの発行再開に伴う大型発行が見込まれることから、活況なマーケットが見込まれる。発行レートは、利上げ後の四半期明けで投資家の運用再開ニーズも高まることから、引き続き水準を見極める展開となるだろう。

<TDB>

26日の3M（第1390回債）の入札は、最高落札利回り0.9246%（前回債0.9224%）、平均落札利回り0.9109%（前回債0.9107%）となった。
来週の入札は7月3日に3Mが予定されている。